

4月8日(水曜日)「ダビデ(1)選び」

【新改訳 2017】

I サムエル記16・1-13

「サムエルは油の角を取り、兄弟の真ん中で彼に油をそそいだ。主の霊がその日以来、ダビデの上に激しく下った。……」(13節)

主の復活と、その結果としての信じる者への祝福のすばらしさを再確認したばかりですが、きょうから再び、旧約聖書の中の「祝福探求」に戻ります。

この箇所から、ダビデの選びと第二代王への道備えが展開されています。彼の生涯の記事を詳しく学ぶならば、それだけで三百六十五日の聖書日課ができるでしょう。今回は、そのほんの一部分を学ぶにすぎません。

主はイスラエルの第二代王に、羊飼いをしていたエッセイの八男ダビデを選び、預言者サムエルをして油を注がれました。その時から主の霊によって導かれる人になります。しかし、この選びは神の一方的な選びでした。ダビデは外見もりっぱでしたが、それで選ばれたのではなく、その心のゆえだったと思われれます。七節に「人はうわべを見るが、主は心を見る」とあるからです。

～祈り～

主なる神さま。あなたは、人のうわべではなく、心を見られるお方です。

どうか、御霊の内住と満たしにあずかれる心にしてください。

(学びのために) 今日からダビデ物語に目を向けます。一人の人を、一つか二つの点からだけでは正しい理解と評価はできませんので、継続して学びます。誰も完全な人はいません。色々な面から見て、初めて正しい見方を学べると思います。